ごあいさつ　（事業の概況）

初夏の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申しあげます。

平素は変わらぬご支援を賜り有り難く厚くお礼を申しあげます。

さて、平成30年度の国内経済は、大企業を中心に引き続き好調な企業収益を背景として緩やかな景気回復が続き、地域経済にも業種にバラツキはあるものの回復の影響が出始めておりました。

一方、海外では、米国をはじめとする保護主義が台頭し、米中貿易摩擦の終着点がいまだ見えず、この影響から中国経済が減速、加えて英国のＥＵ離脱交渉の難航などに伴い欧州経済も問題を抱え、不安定な欧米の政治情勢から世界経済の成長鈍化が懸念されている状況です。

また、当地域の経済動向は、慢性的な人手不足に加え経営者の高齢化、および後継者難が深刻化しており、とりわけ小規模事業者の問題解決が急がれております。

このような状況下において、当金庫の業績につきましては、預金は期末残高209,836百万円となり前年度期末比3,389百万円の減少となりました。科目別では、定期性預金が113,359百万円、要払性預金が96,476百万円、人格別では、個人預金が172,450百万円、法人等の預金が37,386百万円となりました。

貸出金は期末残高71,725百万円となり前年度期末比129百万円の増加となりました。科目別では割引手形が807百万円、手形貸付が4,892百万円、証書貸付が60,156百万円、当座貸越が5,868百万円、人格別では、個人への貸出金が26,287百万円、法人等への貸出金が45,438百万円となりました。その結果、預貸率は３４．１８％となりました。

有価証券は期末残高82,678百万円となり、前年度期末比34百万円の減少となりました。

損益状況につきましては、業務純益299百万円、経常利益109百万円、当期純利益114百万円となりました。

平成30年度は当金庫の『しんきん「共創力」発揮3か年計画』の初年度にあたり、この3か年計画では「収益の視点・収益力の強化」「顧客の視点・地域におけるパフォーマンスの強化」「営業推進の視点・渉外営業力の強化」「組織の視点・組織力の強化」「職員の視点・士気の向上と一体感の醸成」を基本方針とし、信用金庫の独自性・特性を活かしながら、地域に必要とされ、地域に愛され、お客様や地域の成長・発展にお役に立てる金融機関を目指してまいりました。

引続き、お客様や地域に信頼される金融機関として、コンプライアンスを経営の最重要課題と位置付け、その上で、中小企業や個人のお客様の抱える諸問題をきめ細やかに把握し、金融仲介機能・コンサルティング機能を十分に発揮することにより経営改善・事業再生支援や事業承継支援などに注力していくことが当金庫の使命であり課題であると認識しております。

そのため、金融仲介機能・コンサルティング機能を発揮できる能力の育成・強化や、行政、外部機関や専門家などとの連携を強化し、一層の支援体制の整備に努め、地域の持続的発展に貢献すべく役職員一丸となって業務に邁進する所存でございます。

結びに皆様方の一層のご発展、ご隆昌を心からお祈り申しあげますとともに、新年度も一層のご愛顧を賜りますよう切にお願い申しあげ、ご挨拶といたします。

令和元年7月

理事長　大堀芳和